

神崎郡市川町

# サルガク遺跡

— (一) 長谷市川線 道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —



令和6（2024）年3月

兵庫県教育委員会



神崎郡市川町

# サルガク遺跡

— (一) 長谷市川線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —

令和6（2024）年3月

兵庫県教育委員会



## 例 言

- 1 本書は、神崎郡市川町に所在するサルガク遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 本調査は、(一)長谷市川線道路改良工事に伴うもので、兵庫県中播磨県民センター姫路土木事務所の依頼に基づき、姫路土木事務所の協力の下、兵庫県立考古博物館総務部埋蔵文化財課が実施した。
- 3 調査の推移  
(発掘作業)  
確認調査 令和元年11月15日  
実施機関：兵庫県立考古博物館  
本発掘調査 令和2年2月6日～令和2年2月28日  
実施機関：兵庫県立考古博物館  
(出土品整理事業)  
令和5年4月1日～令和6年3月31日  
実施機関：公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部
- 4 本書の編集・執筆は、公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部 鐵 英記が担当し、栗山美奈が補佐した。
- 5 本調査において出土した遺物や作成した写真・図面類は、兵庫県教育委員会（兵庫県立考古博物館）で保管している。
- 6 調査成果の測量は、市川町内の公共基準点を利用し、座標は世界測地系に基づくもので、調査地は第Ⅴ系に属する。また、用いた方位は座標北を示し、標高は東京湾平均海水準を基準とした。
- 7 遺物写真撮影は、株式会社地域文化財研究所に委託して実施した。

## 本文目次

- 第1章 遺跡の位置と環境（1）
  - 第1節 遺跡の位置
  - 第2節 歴史的環境
  
- 第2章 調査に至る経緯と経過（4）
  - 第1節 調査に至る経緯
  - 第2節 調査の経過
  - 第3節 整理作業の経過
  
- 第3章 調査の成果（5）
  - 第1節 A区
  - 第2節 B区
  - 第3節 遺物
  
- 第4章 総括（10）

## 挿図目次

- 第1図 遺跡の位置・周辺遺跡分布図（3）
- 第2図 出土遺物実測図（10）
- 表目次
- 第1表 周辺遺跡一覧（2）

## 図版目次

- 図版1 調査位置図・A区全体図
- 図版2 B区全体図
- 図版3 調査区断面図
- 図版4 遺構断面図1
- 図版5 遺構断面図2

## 写真図版目次

- 写真図版1 A区 全景
- 写真図版2 A区 遺構断面
- 写真図版3 A区 遺構断面 B区 全景
- 写真図版4 B区 遺構断面
- 写真図版5 B区 遺構断面
- 写真図版6 調査風景・出土土器

## 報告書抄録

## 第1章 位置と環境

### 第1節 遺跡の位置

サルガク遺跡が所在する神崎郡市川町は兵庫県の中央南寄りに位置し、東は加西市・多可郡多可町、西は宍粟市、南は福岡町、北は神河町と接する。旧国では播磨国神前郡(神崎郡)に属し、播磨と但馬を結ぶ交通の要衝であった。播磨国の中央部を南北に貫流する市川、その上流部にもあたる。

町域は南東を牛尾山地、南西を七種山地、北東を千が峰・笠形山地、北西を峰山高原といった山岳高原地帯に囲まれている。また、中央を市川が南流し、その流路に沿って市川低地が形成されている。市川低地では市川の両岸に3~4段の河岸段丘が形成されており、サルガク遺跡は西岸では最も新しい低位段丘上に営まれている。

### 第2節 歴史的環境 (第1図)

サルガク遺跡の歴史的環境については、すでに兵庫県文化財調査報告第343冊『サルガク遺跡・沢構』(刊行平成20年3月)に述べられているが、その内容をふまえて、近年の調査成果を加えることとしたい。

旧石器時代に遡る遺跡は市川町内では確認されていない。しかし、周辺では神河町福本遺跡(11)や福岡町南田原桶川遺跡でナイフ型石器が出土していることから、市川町内においても当該期の遺跡が存在する可能性は高い。

縄文時代の遺跡としては、明確な遺構はないものの池尻遺跡(42)、瀬ノ坪遺跡(54)から縄文土器が出土している。郡内では前述の福本遺跡で早期押型文土器が出土しているほか、福岡町大門岡ノ下遺跡で縄文時代の集落が確認され、石棒祭祀の痕跡が見つかった。

弥生時代に入ると遺跡の数も増え、市川町内でもいくつかの集落遺跡が見つかった。鶴居遺跡(19)では前期の土器が出土しているほか、中期から後期の遺構が検出されている。その他にも門の坪遺跡(35)、坂戸遺跡(36)、仏田遺跡(51)でも弥生時代の遺構が検出されている。なお、弥生時代末から古墳時代初頭にかけての山陰型甕形土器が鶴居遺跡・門の坪遺跡から出土している。

古墳時代では前代に引き続き集落が営まれるほか、町内でも古墳が築造される。4世紀に遡るものには全長27mの前方後円墳である観音寺山古墳(29)がある。5世紀に属するものとしては倉谷古墳(33)があり、堅穴石室から鉄製武器が出土している。6世紀以降では長さ10m前後の横穴式石室を主体部とする古墳が散見され、山王1・2号墳(13・14)、大谷古墳(26)、よりど谷1・2号墳(47)が挙げられるが、調査例が少なく不明な点も多い。倉谷古墳、山王2号墳は数少ない発掘調査例である。前者は堅穴石室を主体部とし、鉄製武器が副葬されていた。後者は片袖式横穴式石室を主体部とし、追葬が認められる。圭頭大刀、耳環、武器、馬具等が出土している。

古墳時代の集落としては引き続き鶴居遺跡、坪ノ内遺跡が継続するほか、寺田遺跡(50)、垣添遺跡(32)で住居跡が見つかった。

奈良時代から平安時代の遺跡としては鶴居遺跡で奈良時代から鎌倉時代の掘立柱建物が30棟以上発掘されている。サルガク遺跡(1)から沢構(2)周辺では圃場整備に際して律令期の遺物が出土しており、沢構の調査に際しては墨書土器が多数出土している。その他、町内では山王経塚(17)や笠形寺・笠形神社といった宗教関連の遺跡・施設が興隆する。神崎郡内に目を向けると福本遺跡(福本瓦窯)で

瓦が焼かれていたことは以前より知られていたが、長らくその瓦の供給先と考えられる寺院については不明であった。近年、福本遺跡から北へ1km離れた神河町堂屋敷廃寺(10)で7世紀に遡る寺院遺構が見つかり、出土した瓦の大部分が福本遺跡出土のものと同じであることから、福本遺跡瓦窯の供給先については一応の解決を見た。また、福岡町南田原条里遺跡で大型掘立柱建物跡が検出され、稜椀・製塩土器などが出土している。

平安時代末に神前郡は市川を境に神東郡・神西郡に分かれる。今の市川町域に含まれる神東郡には田中庄、世賀庄、牛尾庄、河述郷(川辺郷)があり、神西郡には永良庄、新野庄、甘地郷があったと考えられる。うち、田中庄、永良庄にあたる地区では条里(52・24)が残っている。

中世には開発が進み、町内各所でこの時期の遺物が散布する地点が認められる。その中で集落遺跡と考えられるものとして戸安遺跡、馬塚遺跡(25)が挙げられる。戸安遺跡では鎌倉時代から室町時代の掘立柱建物群、馬塚遺跡では室町時代のものと思われる掘立柱建物群が検出されている。

また、但馬と播磨を結ぶ交通の要衝であったことから、この地域には赤松氏やその系譜に連なる永良氏をはじめとした様々な勢力が盤踞する。その結果、多くの城館が築かれることとなり、具体的には寺前城(3)、柏尾城(柏尾山城)(4)、沢構、鶴居城(18)、屋形構(20)、飯盛山城(22)、亀山城(39)、千東城(37)、谷城(23)、奥城(34)、河辺城(49)、瀬賀山城(57)、クゴ城、三室城等を挙げるができる。

江戸時代に入ると、神東郡・神西郡は姫路藩領となり、その後一部が因幡鳥取藩池田氏領となった。因幡鳥取藩領は神河町福本に陣屋(9)を構えた福本藩池田氏領(1万石)として独立する。福本藩池田氏はその後、交代寄合の旗本となり、福本池田氏(6000石)、屋形池田氏(3000石)、吉富池田氏(1000石)に分かれ、屋形池田氏が屋形陣屋(21)を構え、幕末に至る。

番号	遺跡名	時代	番号	遺跡名	時代	番号	遺跡名	時代
1	サルガク遺跡	奈良時代～中世	20	藤形橋	中世	39	亀山城跡	中世
2	沢構	奈良時代～中世	21	屋形陣屋跡	武世	40	栗川辺遺跡	古墳時代
3	寺前城跡	中世	22	飯盛山城跡	中世	41	額古古墳	古墳時代
4	柏尾城跡	中世	23	谷城跡	中世	42	池反遺跡	縄文時代、古墳～平安時代
5	古城山古墳	古墳時代	24	永良庄条里跡	奈良時代	43	中京遺跡	奈良時代～平安時代
6	天神山古墳	古墳時代	25	馬塚遺跡	室町時代	44	栗島遺跡	奈良時代、中世
7	高畑通り1号墳	古墳時代	26	大谷古墳	古墳時代	45	栗川辺遺跡	中世
8	高畑通り2号墳	古墳時代	27	近平赤岩跡	奈良時代	46	花籠1～4号墳	古墳時代
9	福本藩立陣屋跡	近世	28	熊屋跡	古墳時代	47	よどび1・2号墳	古墳時代
10	堂屋敷遺跡	奈良～奈良時代	29	観音寺山古墳(東指定)	古墳時代	48	沢田1～4号墳	古墳時代
11	福本遺跡	石見系～奈良時代	30	上野1号墳	古墳時代	49	河辺城址	中世
12	中茶屋古墳	古墳時代	31	上野2号墳	古墳時代	50	寺田遺跡	奈良時代～平安時代
13	山王1号墳	古墳時代	32	短瀬遺跡	奈良時代、中世	51	仏田遺跡	奈良時代
14	山王2号墳	古墳時代	33	倉谷古墳	古墳時代	52	中田中島遺跡	奈良時代
15	山王3号墳	古墳時代	34	養城跡	中世	53	田中敷古池	奈良時代～中世
16	山王4号墳	古墳時代	35	門の戸遺跡	奈良時代	54	野ノ原遺跡	縄文時代、中世
17	山王屋敷	平安時代	36	飯戸遺跡	奈良時代、中世	55	野中敷古池	中世
18	鶴居城跡	中世	37	千東城跡	中世	56	宮の原遺跡	中世
19	観音遺跡	奈良時代～中世	38	溝水1～3号墳	古墳時代	57	瀬賀山城跡	中世

第1表 周辺遺跡一覧表

#### 参考文献

- 市川町教育委員会『ぶらりいちかわ散歩道』(2006)
- 福岡町立神崎郡歴史民俗資料館『発掘調査からみるむかしの福岡』(2019)
- 福岡町立神崎郡歴史民俗資料館『神崎郡の古墳』(2020)
- 神河町教育委員会『堂屋敷廃寺発掘調査報告書Ⅰ』神河町文化財調査報告書第7集(2020)





第1図 周辺の遺跡 (1/50000)

## 第2章 調査に至る経緯と経過

### 第1節 調査に至る経緯

中播磨県民センター姫路土木事務所が計画する（一）長谷市川線道路改良工事は市川町沢地区から新野地区にかけて現道の拡幅等を行うもので、うち沢地区の大部分については、平成6年度から10年度にかけて発掘調査を実施し、平成19年度に調査報告書を刊行している。

今回、事業が未実施であった沢地区西端から新野地区にかけての範囲で、現道の拡幅が図られることとなった。その中で事業地の一部が周知の埋蔵文化財包蔵地「サルガク遺跡」（県遺跡番号：870038）に含まれることから、中播磨県民センター長の依頼（令和元年9月18日付け中播（姫土）第1564号）により確認調査を実施した。その結果、前回調査地点北側に隣接する部分に埋蔵文化財が存在することが判明した。そのため、中播磨県民センター長の依頼（令和元年12月16日付け中播（姫土）第1805号）により、本発掘調査を実施した。

### 第2節 調査の経過

確認調査、本発掘調査とも令和元年度に兵庫県立考古博物館総務部埋蔵文化財課が対応した。

#### 確認調査

調査期間 令和元年11月15日

調査面積 16㎡

調査担当者 兵庫県立考古博物館総務部埋蔵文化財課 渡瀬 健太

前回調査時には未買収であった部分に3カ所の確認グリッドを設定した。調査の結果、遺構が検出されたため、本発掘調査を行うこととなった。

#### 本発掘調査

調査期間 令和2年2月6日～2月28日（実働11日）

調査面積 197㎡

調査担当者 兵庫県立考古博物館総務部埋蔵文化財課 鏡 英記

確認調査の結果に基づき、事業対象地のうち埋蔵文化財が存在する範囲について、本発掘調査を実施した。

#### 調査日記（抄）

- 令和2年2月6日（木） B区 機械掘削開始  
2月7日（金） B区 機械掘削  
2月10日（月） B区 機械掘削・人力掘削  
2月12日（水） 人力掘削。遺構検出・掘削・実測。  
2月13日（木） 降雪のため、作業中止。  
2月14日（金） B区 人力掘削。遺構検出・掘削・実測。  
2月17日（月） B区 遺構検出・掘削・実測。  
2月18日（火） B区 遺構検出・掘削・実測。

2月19日(水)	B区	遺構検出・掘削・実測。全景写真撮影。
2月26日(水)	A区	機械掘削。
2月27日(木)	A区	人力掘削。遺構検出・掘削・実測。
2月28日(金)	A区	遺構検出・掘削・実測。全景写真撮影。

### 第3節 整理作業の経過

整理作業については、令和5年度に兵庫県立考古博物館において実施した。その内容は遺物の洗浄・ネーミング・実測・写真撮影、遺構図補正・トレース、レイアウト作業および報告書執筆・刊行である。

実施機関 公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部

担当者 調査第1課 鐵 英記

整理保存課 野田優人

栗山美奈 花房伸子 藤尾裕子 大木昌子 藤田久範

## 第3章 調査の成果

現町道を挟んで、A・B二地区に分割して調査を実施した。西側がA区、東側がB区である。基本層序は、A区とB区で若干異なっているが、それは現状での土地利用に拠るものと考えられる。A区は畑として利用され、B区は水田が営まれていた。

A区は上から1層：耕作土、2層：黒褐色シルト、3層：黒色シルト、4層：B区6層と同じ、である。B区は上から1層：耕作土、2層：床土、3層：粘質シルト、4層：土壌化した粘質シルト、5層：黒色シルト、6層：褐色～明褐色粘質シルトはA・B区双方に共通している。B区では遺構面である6層が調査区東半で市川に向かって徐々に下っていき8層：にぶい橙色粗砂層に変化している。そして、5層下半が7層：礫を含む黒褐色粘質シルトに変化している。

以下、地区ごとに成果を記述する。なお、遺構番号は検出段階で付加したものを踏襲しているが、掘削の結果、遺構と判断できなかつたものについては除外したため、番号は連続していない。また、遺構と判断したものについても遺物は出土しておらず、土器片が数点遺構を覆う黒色シルト層から出土した。

### 第1節 A区(図版1・4・写真図版1～3)

調査対象範囲西側に位置する。概ね正方形の調査区である。土坑あるいは柱穴状の遺構が検出された。ただし、列状あるいは建物として認識できるものはなかった。遺構の埋土は基本的に黒色～黒褐色粘質シルトである。

#### 遺構 12

調査区南東部で検出した。平面形はやや歪んだ楕円形を呈し、長軸0.7m、最大幅0.5m、検出面からの深さは0.26mである。埋土は黒色シルトである。

#### 遺構 13

調査区南東部で検出した。平面形は楕円形を呈し、長軸0.6m、最大幅0.4m、検出面からの深さは0.14

mである。埋土は黒色シルトである。

#### 遺構 19

調査区北西隅で検出した。平面形は長楕円形を呈し、長軸1.3m、最大幅0.4m、検出面からの深さは0.15mである。埋土は黒色シルトである。

#### 遺構 24

調査区南東部で検出した。平面形は楕円形を呈し、長軸0.5m、最大幅0.3m、検出面からの深さは0.24mである。埋土は上層が黒褐色粘質シルト、下層が黒色シルトである。

#### 遺構 25

調査区南東部で検出した。平面形は概ね円形を呈し、径0.5m、検出面からの深さは0.09mである。埋土は黒褐色粘質シルトである。

#### 遺構 26

調査区南東部で検出した。平面形は歪んだ楕円形を呈し、長軸0.5m、最大幅0.35m、検出面からの深さは0.12mである。埋土は黒色シルトである。

#### 遺構 29

調査区北辺中央で検出した。平面形は長楕円形を呈し、長軸0.7m、最大幅0.4m、検出面からの深さは0.1mである。埋土は黒色シルトである。

#### 遺構 33

調査区北辺東部で検出した。平面形は隅丸長方形を呈し、一部が調査区外に延びる。検出長0.8m、最大幅0.2m、検出面からの深さは0.11mである。埋土は黒色シルトである。

#### 遺構 38

調査区北東部で検出した。平面形は楕円形を呈し、長軸で0.65m、最大幅0.4m、検出面からの深さは0.09mである。埋土は黒色シルトである。

#### 遺構 39

調査区北東部で検出した。調査区東辺にかかっており、調査区外に延びる。検出長0.3m、最大幅0.4m、検出面からの深さは0.15mである。埋土は黒色シルトである。

#### 遺構 41

調査区南東部で検出した。調査区東辺にかかっており、調査区外に延びる。検出長0.5m、幅0.4mを測り、検出面からの深さは0.1m、埋土は黒色シルトである。

#### 遺構 42

調査区北東部で検出した。調査区東辺にかかっており、調査区外に延びる。形状は不整形で検出長0.7m、最大幅1.4m、検出面からの深さは0.12mである。埋土は黒色シルトである。

#### 遺構 44

調査区南東部で検出した。平面形は歪んだ隅丸方形を呈し、長辺0.55m、短辺0.45mを測る。検出面からの深さは0.05mである。埋土は黒色シルトである。

### 第2節 B区 (図版2・4・5・写真図版3～5)

調査対象範囲東側に位置する。東西に細長く伸びる調査区である。東に行くにしたがって、幅を減じている。西半分を中心に土坑あるいは柱穴状の遺構が検出された。ただし、A区と同様、列状あるいは建物として認識できるものはなかった。遺構の埋土は基本的に黒色～黒褐色粘質シルトであり、一部遺構はそこに礫が混じる。

#### 遺構 07

調査区西端付近で検出した。遺構63に切られる。平面形は南側が狭くなる楕円形を呈し、長さ1.1m、幅0.7m、検出面からの深さは0.07mを測る。埋土は黒色シルトである。

#### 遺構 12

調査区南西隅で検出した。平面形は短い溝状を呈し、長さ1.65m、幅0.5mを測る。検出面からの深さは0.03mである。埋土は黒褐色粘質シルトである。

#### 遺構 13

調査区西端、南辺に接して検出した。調査区外に伸びるため、平面形は不明で、検出長1.0m、検出幅0.4m、検出面からの深さは0.14mを測る。埋土は黒色シルトである。

#### 遺構 14

調査区西端、南辺に接して検出した。遺構13の東側に隣接する。調査区外に伸びるため、平面形は不明で、検出長0.5m、検出幅0.4m、検出面からの深さは0.06mを測る。埋土は黒褐色粘質シルトである。

#### 遺構 16

調査区西部、南辺に接して検出した。調査区外に伸びるため、平面形は不明で、検出長(南北)1.0m、検出幅(東西)3.5m、検出面からの深さは0.15mを測る。埋土は黒色シルトである。

#### 遺構 22

調査区西端付近で検出した。平面形は隅丸三角形を呈する。長さ1.5m、幅0.7mを測る。検出面からの深さは0.05mを測る。径0.2mのビット状の落ち込みに2か所切られている。埋土は黒褐色粘質シルトである。

#### 遺構 23

調査区北西部で検出した。遺構22と遺構26の間に位置する。平面形はやや歪んだ隅丸方形を呈する。長さ0.7m、幅0.55m、検出面からの深さは0.22mを測る。埋土は黒色シルトである。

#### 遺構 26

調査区北西部で検出した。平面形は短い溝状を呈する。長さ1.6m、幅0.6m、検出面からの深さ0.08mを測る。柱穴状の落ち込みと平面的に重複する。埋土は黒色シルトである。

#### 遺構 30

調査区南西部で検出した。平面形は歪な隅丸方形を呈する。長さ0.7m、幅0.4m、検出面からの深さは0.08mを測る。埋土は黒褐色粘質シルトである。

#### 遺構 31

調査区南西部で検出した。平面形は歪な楕円形を呈する。長軸0.85m、短軸0.7m、検出面からの深さ0.1mを測る。遺構30の南に接する。埋土は黒色シルトである。

#### 遺構 33

調査区北西部で検出した。確認調査グリッドで攪乱されており、形状は不明である。残存長0.55m、検出面からの深さ0.05mを測る。埋土は黒色シルトである。

#### 遺構 34

調査区北西部で検出した。確認調査グリッドで攪乱されており、形状は不明である。残存長0.3m、検出面からの深さ0.04mを測る。埋土は黒色シルトである。

#### 遺構 38

調査区中央、北辺に接して検出した。一部調査区外に伸びるが平面形は隅丸方形を呈する。検出長0.8m、幅0.6m、検出面からの深さ0.05mを測る。埋土は黒褐色粘質シルトである。

#### 遺構 39

調査区中央、北辺に接して検出した。一部調査区外に伸びるが平面形は楕円形状である。検出長0.8m、幅1.0mを測り、検出面からの深さは0.14m、埋土は黒色シルトである。

#### 遺構 44

調査区中央で検出した溝状の遺構である。東西方向に伸びた後、ほぼ直角に屈曲して調査区南辺に接する。幅は西から東、屈曲部から南に向かってひろがり、最小0.3m～最大1.1mを測る。検出面からの深さは0.14mである。埋土は黒色シルトである。

#### 遺構 47

調査区中央で検出した。遺構44の北側に位置する土坑状の遺構である。隅丸長方形を呈し、長さ1.0m、幅0.7m、検出面からの深さは0.1mを測る。埋土は黒色シルトである。

#### 遺構 48

調査区中央で検出した。平面形は隅丸長方形を呈し、長さ3.35m、幅1.4m、検出面からの深さ0.51mを測る。埋土は礫混じりの黒色シルトである。

#### 遺構 52

調査区中央で検出した。平面形は歪んだ隅丸長方形を呈し、長さ2.6m、幅1.4m、検出面からの深さ0.52mを測る。埋土は礫混じりの黒色シルトである。

#### 遺構 53

調査区中央で検出した。南壁に接しており、形状は不明である。残存長0.9m、検出面からの深さ0.2mを測る。埋土は黒色シルトである。

#### 遺構 58

調査区北西隅で検出した。平面形は歪な円形で、径0.4～0.5mを測る。検出面からの深さは0.13mである。埋土は黒色シルトである。

#### 遺構 60

調査区西端付近で検出した。遺構22の南東に接する。平面形は隅丸長方形で、長さ0.9m、幅0.5を測る。検出面からの深さは0.08mである。埋土は黒色シルトである。

#### 遺構 63

調査区西端付近で検出した。遺構07を切る。平面形はやや歪んだ円形を呈し、径0.7m、検出面からの深さ0.26mを測る。埋土は礫混じりの黒色シルトである。

#### 遺構 68

調査区北西部で検出した。確認調査グリッドで攪乱されており、形状は不明である。残存長0.45m、検出面からの深さ0.11mを測る。埋土は黒色シルトである。

#### 遺構 69

調査区北西部で検出した。遺構26の東側に隣接する。平面形は楕円形を呈し、長軸0.7m、短軸0.45m、検出面からの深さ0.11mを測る。埋土は黒色シルトである。

#### 遺構 76

調査区中央で検出した。南壁に接しており、形状は不明である。残存長0.7m、検出面からの深さ0.15m

を測る。埋土は礫混じりの黒色シルトである。

### 第3節 遺物

今回の調査地では、本章冒頭にも記したとおり、確認調査時も含め、遺物の出土がほぼ認められず、凶化できたものは土師器甕あるいは鍋の口縁部の破片と思われる1点のみである。

「く」の字に屈曲する頸部から短く直線的に伸びる口縁を持つ。ヨコナデが施される。中世に属するものと考えられる。



第2図 出土遺物

## 第4章 総括

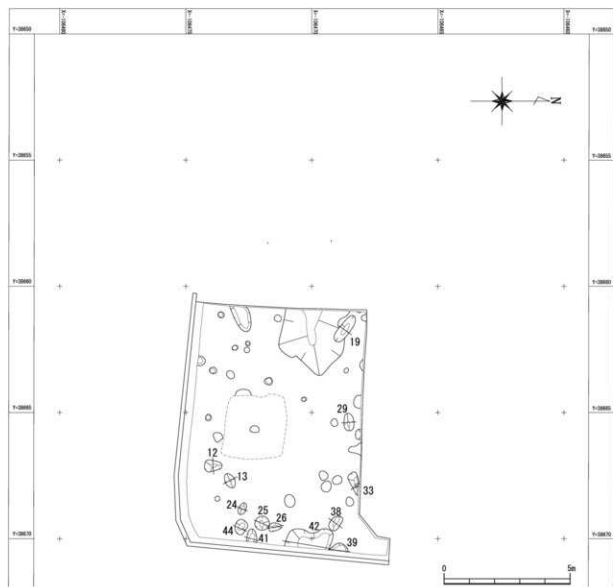
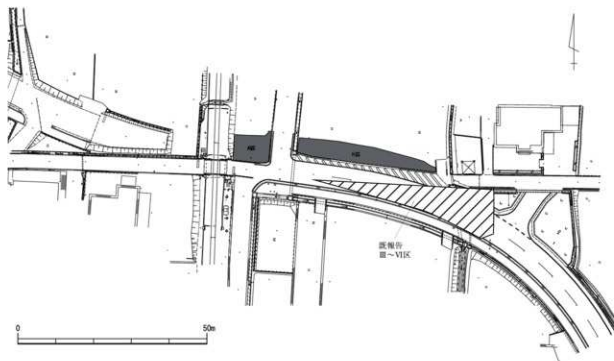
今回の調査地点は、前回調査のⅢ～Ⅴ区の北側に隣接している。Ⅲ～Ⅴ区においては、遺構のあり方は散在的で遺物の出土も少なかったため、集落の縁辺にあたるものと推定された。

今回の調査においても、埋土からあまり時期差がないと推定される遺構は散在するものの、出土遺物がほとんどなく、物質的活動は希薄である。そのため、遺構の時期、性格の判断は困難ではあるが、調査地付近が集落の縁辺部であることは追認されたものと考えられる。

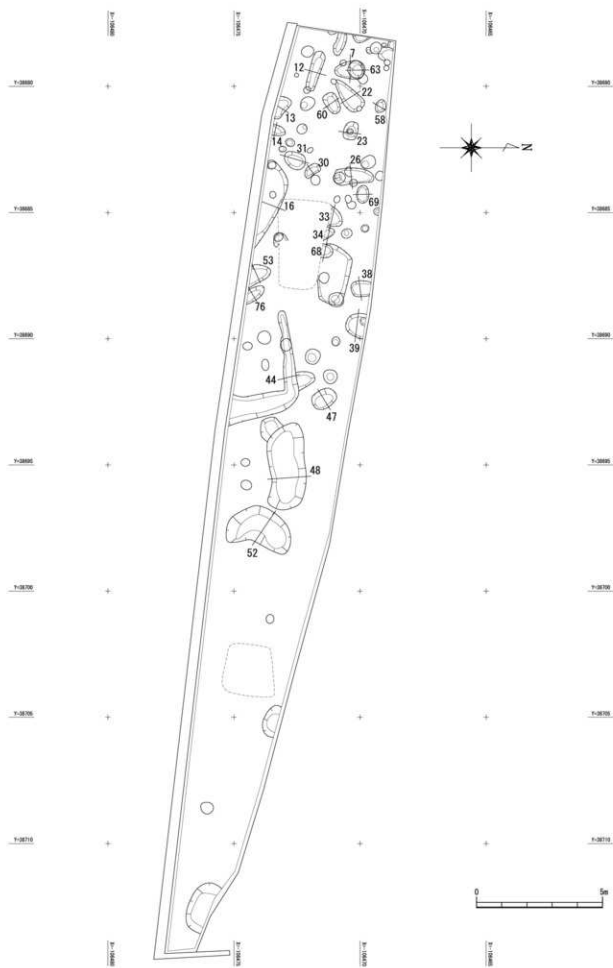


## 图 版

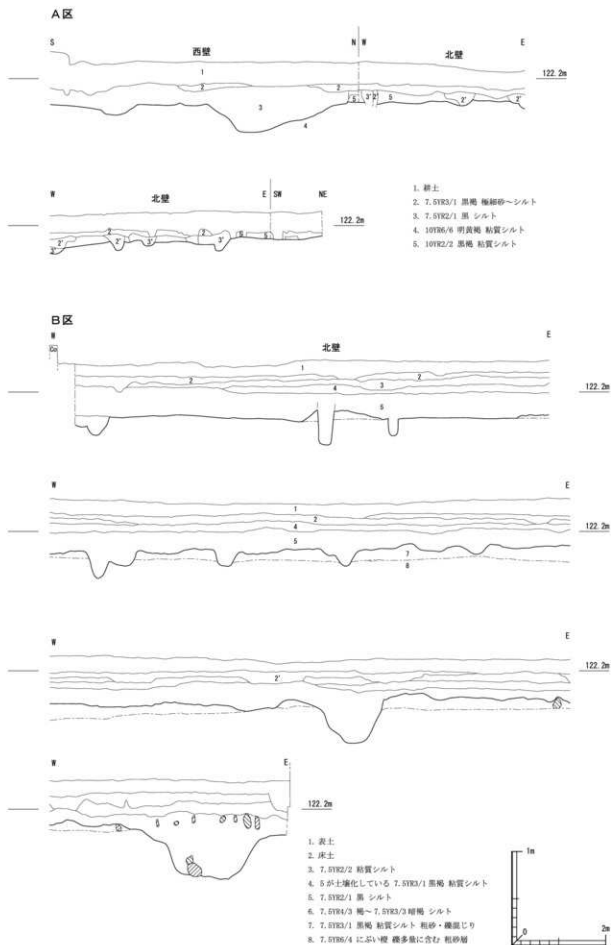




A区 全体图



B区 全体图



A・B区 断面図

A 区

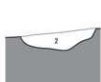
E — 12 — 122.2m W



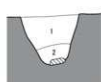
NW — 13 — 122.2m SE



SW — 19 — 122.2m NE



NE — 24 — 122.2m SW



NE — 25 — 122.2m SW



N — 26 — 122.2m S



N — 29 — 122.2m S



NE — 33 — 122.2m SW



N — 38 — 122.2m S



N — 39 — 122.2m S



N — 41 — 122.2m S



N — 42 — 122.2m S



NE — 44 — 122.2m SW



B 区

N — 7 — 122.0m E



S — 12 — 122.0m N



N — 13 — 122.0m S



E — 14 — 122.0m W



N — 16 — 122.0m S



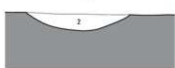
W — 22 — 122.0m E



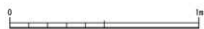
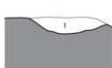
S — 23 — 122.0m N



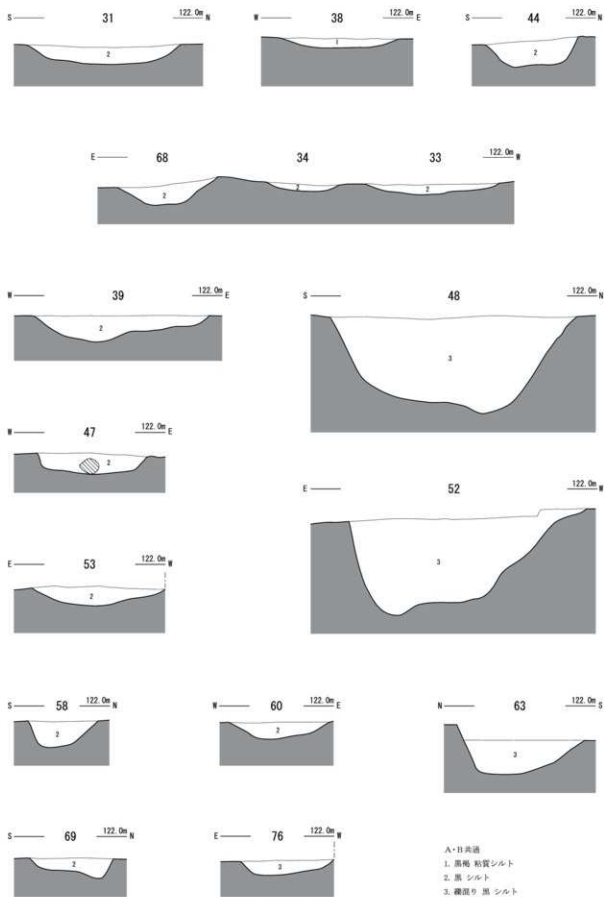
W — 26 — 122.0m E



W — 30 — 122.0m E



遺構断面 (1)



遺構断面 (2)





# 写 真 图 版





A区 全景（東から）



A区 全景（北から）



遺構 12 断面 (北から)



遺構 13 断面 (西から)



遺構 19 断面 (南東から)



遺構 24 断面 (西から)



遺構 25 断面 (西から)



遺構 26 断面 (西から)



遺構 29 断面 (西から)



遺構 33 断面 (西から)



遺構 38 断面 (北西から)



遺構 39 断面 (西から)



遺構 41 断面 (西から)



遺構 42 断面 (西から)



遺構 44 断面 (北西から)



B区 全景 (西から)



B区 西半 (南東から)



遺構 7 断面 (南から)



遺構 12 断面 (東から)



遺構 13 断面 (北西から)



遺構 14 断面 (北西から)



遺構 16 断面 (西から)



遺構 22 断面 (南西から)



遺構 26 断面 (南から)



遺構 30 断面 (南東から)



遺構 31 断面 (東から)



遺構 33 断面 (北から)



遺構 34 断面 (北から)



遺構 38 断面 (南から)



遺構 39 断面 (南から)



遺構 44 断面①(東から)



遺構 44 断面②(北から)



遺構 47 断面 (南東から)



遺構 48 断面 (東から)



遺構 52 断面 (北から)



遺構 53 断面 (北から)



遺構 58 断面 (北から)



遺構 60 断面 (南西から)



遺構 69 断面 (西から)



遺構 76 断面 (北から)



調査風景（機械掘削）



調査風景（人力掘削）



調査風景（造構掘削）



調査風景（実測作業）



調査風景（電子平板）



調査風景（現場養生）



出土遺物



## 報 告 書 抄 録

ふりがな	さるがくいせき							
書 名	サルガク遺跡							
副 書 名	(一) 長谷市川線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ名	兵庫県文化財調査報告							
シリーズ番号	第535冊							
編著者名	鐵 英記							
編集機関	公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部							
所 在 地	〒675-0142 兵庫県加古郡播磨町大中1丁目1番1号(兵庫県立考古博物館内) Tn079-437-5561							
発行機関	兵庫県教育委員会							
所 在 地	〒650-8567 兵庫県神戸市中央区下山手通5丁目10番1号 Tn078-362-3784							
発行年月日	令和6(2024)年3月25日							
資料保管機関	兵庫県立考古博物館							
所 在 地	〒675-0142 兵庫県加古郡播磨町大中1丁目1番1号 Tn079-437-5589							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間 (遺跡調査番号)	調査面積 (㎡)	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
さるがく サルガク遺跡	兵庫県市川町 澤	284424	870038	35° 2' 22"	134° 45' 26"	令和元年11月15日 (2019059) 令和2年2月6日 ～令和2年2月28日 (2019077)	16㎡ 197㎡	記録保存調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
サルガク遺跡	集落	中世	土こう、溝、ピット		土師器			
要約	中世と考えられる集落遺跡。							



---

兵庫県文化財調査報告 第535冊

市川町

## サルガク遺跡

— (一) 長谷市川線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —

令和6(2024)年3月25日 発行

編集：公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部

〒675-0142 兵庫県加古郡播磨町大中1丁目1番1号

(兵庫県立考古博物館内)

発行：兵庫県教育委員会

〒650-8567 兵庫県神戸市中央区下山手通5丁目10番1号

印刷：(株)プロシード

〒671-0248 兵庫県姫路市四郷町山脇106-1

---





